

「挑戦し続けるたくましさ」を育むために
～令和6年度「全国学力・学習状況調査」結果から～



1 はじめに

高山市の子どもたちのよさや課題について、より広く市民の皆様にご覧いただくとともに、学校・家庭・地域で情報の共有を図ることにより、更なる「協働」した取組を進めるため、「全国学力・学習状況調査」の結果を公表いたします。

各学校の得点（正答率）については、学校の序列化や過度の競争、個人の特定につながる恐れがありますので、公表はいたしません。子どもたちの健やかな成長を願い、市民の皆様にもご理解いただきますようお願いいたします。

2 全国学力・学習状況調査の概要

（1）調査の目的

- ・高山市教育委員会と市内全小中学校では、全国的な状況との関係において、自らの教育の結果を把握し、各学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるために調査に加わっています。

※ただし、調査の結果は児童生徒の学力の一部を示すものであり、この結果のみで児童生徒の学力の全体を判断できるものではありません。

（2）調査の対象学年

- ・高山市内の全小学校の第6学年の児童と全中学校の第3学年の生徒

（3）調査の内容

- ・今年度、小学校では国語・算数に関する調査、中学校では国語・数学に関する調査、小中学校共に生活の諸側面や学習意欲等に関する質問調査を行いました。

（4）調査日

- ・令和6年4月18日（木）

3 高山市における調査結果の概要

（1）児童・生徒の学力の状況について【学力調査から】

全国平均正答率と比較した市の状況をまとめました。

※表記方法：市の状況を、全国平均正答率と比較して下記の5つの記号で表記しています。

「▲」：-5.0以下 「△」：-4.9～-1.1 「※」：-1.0～+1.0 「○」：+1.1～4.9 「◎」：+5.0以上

科目	対象学年	小学校6年生		中学校3年生	
		高山市	全国（%）	高山市	全国（%）
国語		※	67.7	○	58.1
算数・数学		△	63.4	※	52.5

【学習所見について】

<国語>

- ・小学校では、「書くこと」において、目的や状況に応じて自分の考えが伝わるように表現を工夫したり、理由を明確にして表現したりする力が身に付いてきています。一方、「話すこと・聞くこと」においては、資料を活用するなど、自分の考えが伝わるように表現を工夫したり、目的や意図に応じて、伝え合う内容を検討したりする力についての更なる向上が求められます。
- ・中学校でも「書くこと」において、話し合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめたり、自分の考えが伝わる文章になるように工夫したりする力が身に付いています。一方、文脈に即して漢字を正しく書いたり、表現の技法を理解したりする力について、更なる知識・技能の定着が求められます。

＜算数・数学＞

- ・小学校の算数では、空間図形の見取図に関する他者の考えを理解したり解釈したりして、他の立体について説明する力が身に付いています。一方で、速さや面積に関する公式を用いて数値を求めるという一面的な技能ではなく、それらの知識を場面に応じて活用するという多面的な技能については更なる向上が求められます。
- ・中学校の数学では、関数を用いる問題場面において、グラフと式や、グラフと問題場面を関連づけて考える力が身に付いています。一方で、考えたことを式や根拠を明確にして順序よく説明したり、その説明を根拠に他の性質を説明したりする力については、更なる向上が求められます。

→ 上記の結果を踏まえ、小学校の授業では、体験的な活動や生活経験と関連づけた学習を大切にします。このことにより児童自身の考えたい、調べたいという主体性を引き出しながら、仲間と多面的・多角的に考え、議論できる授業実践を目指します。また、中学校の授業では、学習した内容が活用される体験を増やすことで更なる主体性を培うと共に、生徒自身の言葉で考えや疑問を伝え合う対話を通して、より確かで深い理解と活用力が得られる授業の実現に挑戦します。そして、何となく「わかった」ことで安易に思考を止めたり、学級全体に「わからせたつもり」で進める授業ではなく、納得がいくまでとことん考え、挑戦し続ける個と向き合う授業実践を継続していきます。

（２）授業中の学習に対する意識について【質問紙調査から】

（記号の表記は学力と同様。数値は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」という肯定的な回答の比率）

「▲」：-5.0以下 「△」：-4.9～-1.1 「※」：-1.0～+1.0 「○」：+1.1～4.9 「◎」：+5.0以上

質問項目	小学校 6 年生（％）		中学校 3 年生（％）	
	高山市	全国	高山市	全国
授業では、課題の解決に向けて、自ら考え、自分から取り組んでいましたか。	◎	81.9	◎	80.3
学習について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。	◎	80.8	◎	77.9
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。	○	86.3	◎	86.1
自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。	○	67.6	◎	64.8
国語の勉強は好きですか。	○	62.0	△	64.3
国語の授業の内容はよく分かりますか。	◎	86.3	○	82.7
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。	○	93.2	○	90.6
算数・数学の勉強は好きですか。	◎	61.0	△	57.2
算数・数学の授業の内容は、よく分かりますか。	◎	82.1	○	75.7
算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。	○	94.1	※	78.5
これまでに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。（ほぼ毎日～週3回以上）	◎	59.5	◎	64.4

I C T機器を使うと、 <u>分からないことがあった時に、すぐに調べることができる。</u>	○	92.1	○	93.9
I C T機器を使うと、 <u>自分のペースで理解しながら学習を進めることができる。</u>	◎	85.5	◎	80.2
I C T機器を使うと、 <u>友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる。</u>	◎	86.1	◎	86.2

「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善への取組みの成果については、次のとおりです。

- 課題解決に向けて自ら考え、自ら取り組むことや、分かった点や疑問点を次の授業につなごうとすることについて、小・中ともに全国平均を大きく上回っていると共に、昨年度よりもさらに高い結果が得られています。
 - 授業におけるI C T機器の活用率は昨年度より減少していますが、I C T機器を活用する良さに関する児童生徒の実感については、小・中とも高い結果となっています。このことから、I C T機器については「とにかく活用する機会を増やす」段階から「目的に応じて活用する」段階に切り替わってきていると捉えることができます。
 - △ 自分の考えを発表する機会に自分の考えをうまく伝えるための工夫については更なる向上の余地があります。
- 児童生徒の主体的・対話的で深い学びに向かう意識の高まってきています。そうした学びを活性化させるツールとしてのI C T機器の活用については、児童生徒が目的や必要に応じて自ら判断し、決定することを大切にしていきます。そしてノートに自分の考えや学びをまとめるという従来の学習活動だけに留まらず、児童生徒の特性に応じてI C T機器の有効活用によって考えをまとめる学び方も認めるなど、新たな授業スタイルにも挑戦していきます。また、授業での学んだことと日常生活を関連づけて考える児童生徒の姿を見出し、価値づけたり、広めたりすることも大切にします。

(3)「居場所づくり」「なりたい自分」「深い学びへの挑戦」に関わる質問紙の状況について
質問紙の結果を、高山市小・中学校教育の方針と重点に示された3つの柱に関わる、下記の項目の傾向をみてみました。

(記号の表記は学力と同様。数値は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」という肯定的な回答の比率)

「▲」: -5.0以下 「△」: -4.9～-1.1 「※」: -1.0～+1.0 「○」: +1.1～4.9 「◎」: +5.0以上

	項 目	小学校6年生 (%)		中学校3年生 (%)	
		市	全国	市	全国
居場所づくり	友達関係に満足していますか。	○	91.1	○	90.1
	先生は、あなたのよいところを認めてくれると思いますか。	○	89.9	◎	90.4
	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。	◎	67.1	◎	67.5
	あなたの学級では、学級生活をより良くするために学級で話し合い、互いの意見の良さを生かして解決方法を決めていますか。	◎	84.2	◎	86.3

なりたい自分	自分にはよいところがあると思いますか。	◎	84.1	◎	83.3
	将来の夢や目標を持っていますか。	○	82.4	◎	66.3
	人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	○	95.9	○	95.2
	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。	◎	83.5	◎	76.1
深い学びへの挑戦	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。	◎	75.8	○	76.2
	これまでの授業では、各教科で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。	◎	79.6	◎	75.4
	新聞を週1回以上読んでいますか。	○	11.6	※	7.3
	学校での授業時間以外に、普段（月～金）、1日あたり2時間以上勉強をしますか。	▲	23.5	▲	31.7
	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日あたり2時間以上勉強をしますか。	▲	11.6	△	15.5
	携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか。	△	71.1	○	72.2

<一人一人の子の居場所づくりに関わって>

- ・「先生は、自分のよいところを認めてくれる」と答えた児童生徒は、今年度も小・中学校ともに、全国平均より高い傾向が見られました。身近な大人からの他己評価により自己有用感が一層高まっていると考えられます。
- ・「身の回りに困りごとや不安を相談できる大人がいる」「学級生活をより良くするために互いの意見の良さを生かして解決方法を決めている」と答えた児童生徒の割合も全国平均より高く、頼れる存在が身近にある安心感や、お互いに認め合い、共により良く成長できる学級集団という居場所づくりができています。
- ・今後も、安心して生活できると言い切れない児童生徒に寄り添って、どの子にも安心できる居場所づくりが実現できるように努力し続けます。

<なりたい自分に関わって>

- ・「将来の夢や目標をもっている」「地域や社会をよくするために、何かしてみたいと思う」と答えた児童生徒は昨年度より大きく増加しました。自己肯定感や郷土愛、貢献感が一段と高まってきていると捉えられます。
- ・「自分にはよいところがあると思う」「人の役に立てる人間になりたい」と答えた児童生徒が今年度も全国平均を上回り、自分の長所を生かして社会貢献しようという意識の高さを表しています。今後も、更に自己肯定感を高められるようにしていきます。

<主体的・対話的で深い学びへの挑戦に関わって>

- ・主体的・対話的で深い学びを生み出すために必要な要素について「自分と違う意見について考えるのは楽しい」「授業では、各教科で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っている」と答えた小学生の割合は昨年度よりも大きく増加し、全国平均より高い結果となりました。中学生の割合も昨年度までと同様の高さを示しています。今後も、高山市においては小・中共に主体的・対話的で深い学びを実感できる授業実践に挑戦し続けます。

- ・「学校での授業時間以外に、普段（月～金）1日あたり2時間以上勉強をする」と答えた児童生徒の割合は、今年度も全国平均より低い傾向にあります。中学校の経年変化では、1日あたりの家庭学習時間（塾等も含む）について、2時間以上の児童生徒が減少し、30分未満が増加している実態があります。今後も、日々の学習内容のつながりが意識できる授業実践により、児童生徒自身が必要感をもって学べるようにしていきます。
- ・携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方についての約束をだいたい守れている児童生徒の割合は、小中ともに7割を超えています。一方で、集計結果からは約束を守れていない児童生徒ほど今回の調査における正答率が低く、ついで家族との約束がない児童生徒の正答率も低いことが分かっています。今後も、授業参観日などを活用して親子で情報モラルを考える機会を設け、より良い情報機器の使い方について自分身事として考えられる児童生徒の育成に取り組んでいきます。

4 全国学力・学習状況調査結果の活用について

高山市の児童生徒は、保護者や地域の方々の温かい声掛けや励まし、また各校の特色ある取組みによって、「安心できる居場所」で「なりたい自分」の実現に向けて「主体的・対話的で深い学びを実感」しながら、たくましく挑戦し続けていることが、今回の結果や数値にも明確に表れています。小中学校においては、自分の夢や将来の目標の実現に向けて、挑戦する一人一人の個と向き合い、その修正・改善に寄り添うことで学習面、生活面ともにより充実させていけるように支援してまいります。

今後も、学校・家庭・地域が協働して取り組むことが欠かせません。児童生徒一人一人の郷土高山に根ざし、未来を切り拓くための資質・能力を育むためにも、それぞれの立場から個と向き合い、積極的に関わっていただきますようお願いいたします。

【学校では】

- 児童生徒一人一人の良さを認め、お互いを認め合える居場所としての学級・学校づくりに継続的に努めてまいります。また、一人一人の「なりたい自分」の把握と、その実現に向けた挑戦、その過程について修正・改善についての価値付けを大切にし、一人一人の個と向き合った支援を大切にします。
- 学習面では、ICT機器やNEW! GIFU ウェブラーニングなどの教育データ利活用に積極的に取り組み、一人一人の進捗状況に目を向けて、個別最適な学びの実践に努めます。

【家庭では】

- 家庭でもお子さんとの対話の時間をこれまで以上に増やし、学校での様子や授業で学習した内容等を話題にしながら、お子さんが挑戦したことを認め励ましていただくようお願いいたします。また、学校での学びを日常生活につないで考えている姿については大いに褒め、意欲や主体性、自己有用感を育てていただけるとありがたいです。
- お子さんの「なりたい自分像」や「その実現に向けた取組」については、家族でも折りに触れて話題にさせていただき、方向性をより具体的にしたり、取組の具体案を示したりしていただけるとありがたいです。
- スマートフォンなどのICT機器の扱い（ゲームやSNS・動画の視聴等）や情報モラルに関する「家族との約束」を定期的に見直したり確認したりしていただきながら、生活習慣を見直す機会としていただけるとありがたいです。

【地域では】

- 自分の住んでいる地域の行事に参加したり、地域のために活動したい子どもたちです。地域のため、地元の人のために活躍できる機会を与えたり、活動の姿で具体的に認め、励ましたりするなど、「人の役に立つ人間になりたい」という意識を一層育んでいただけるとありがたいです。
- 地域の一員としての子どもたちと、地域が抱える課題や地域で困っていることについて、一緒に考えていただく場を設けていただけるとありがたいです。

5 公表方法

- (1) 高山市ホームページに掲載し、保護者を始め一般市民が閲覧できるようにします。
- (2) 各学校では、これまでと同様に独自の分析を行い、保護者や地域にお伝えします。

